



文 武 両 輪

～学習も行事も部活動も～

令和4年12月13日

【文責】校長 蔦川 誠

快挙！全国大会で優良賞獲得！

～科学の甲子園ジュニア全国大会に長者中から3名参加～

12月2日(金)から4日(日)の日程で、兵庫県姫路市で第10回科学の甲子園ジュニア全国大会が開かれました。この全国大会は、理科、数学等における複数分野の競技に協働して取り組むことを通じて、中学生が科学の楽しさ、面白さを知り、科学と実生活・実社会との関連に気づき、科学を学ぶことの意義を実感する目的で開催されています。

本校からは、坂慶人さん(2年1組)、村田綾美さん(2年2組)、山本小遥さん(2年2組)の3名が青森県チームの一員として参加してきました。本校と青森市立南中学校からそれぞれ3名ずつの計6名が、筆記試験と実技競技を行いました。実技競技では、制限時間内(95分)にコピー用紙100枚で紙の橋を作って、その上を水を入れたペットボトルを積んだ車を走らせ、どれだけ多くの水を運ぶことができたかを競いました。筆記試験と実技競技の結果、青森県チームは見事に優良賞(全国20位以内)を獲得しました。全国の予選を勝ち抜いた47チームの中で優良賞獲得というのは、本当に素晴らしい結果です。青森県としてはここ数年にない好成績ということでした。3名の皆さん、お疲れさまでした。

以下に、坂慶人さん、村田綾美さん、山本小遥さんの感想を載せます。

坂 慶人さん

全国大会は県予選とは違って、他校とのコミュニケーションが大事になり、今大会の目標を「協力」としました。実技競技では、課題だった声かけと効率を意識して取り組み、最後の8分間で車の試行に成功しました。1週間前から吹奏楽部の練習が終わった後に夜遅くまで練習してきた成果を十分に出し切ることができました。優良賞という少し悔しい結果でしたが、ここまで頑張ることができたのは、指導して下さった佐々木先生をはじめとする先生方と、保護者の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

村田 綾美さん

今回の大会で頑張ったことは、声かけをすることです。練習の時は、自分自身の作業でいっぱいいて、周りのことをあまり見ることはできませんでした。しかし、本番では声かけを意識して、いつもより早く作業を終えて、練習時間を確保できました。大会では、協力することの大切さを学ぶことができました。青森県チームとして、青森南中と協力して、問題を解くことができました。この経験をこれからの生活にも生かしていきたいです。

山本 小遥さん

全国大会では、コミュニケーションの大切さを改めて学ぶことができました。普段の練習では声かけが足りずに思うようにいかないことがありましたが、本番では声かけを意識したので、時間内に橋を製作することができました。同じチームの青森南中や他県の代表の人たちとも、たくさん話すこともできました。支えて下さった先生方や保護者に感謝して、来年出場する後輩にはもつと上を目指して頑張りたいです。

